

平成27年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	酸化物系ナノチューブの高次構造チューニングによる物理光化学機能の深化と体系化
研究代表者	関野 徹（大阪大学・産業科学研究所・教授）
研究期間	平成27年度～平成31年度
審査結果の所見	<p>応募者らが開発に成功した酸化チタンナノチューブ（TNT）の物理化学、光化学機能を明らかにし、更にそれらの知見を酸化物系ナノチューブへの展開へつなげようとする研究である。</p> <p>TNTの物理光化学機能は、未知の部分が多く、研究成果は新規機能創成材料・システムとしても先導的な役割を期待でき、また、応募者の研究実績を鑑みてもその成果が期待できる。</p> <p>一方では、総花的な感が強く、多くの可能性の中で最重点とすべき部分が不明確であり、また、本研究が環境保全学とどのように関わりを持つのかについても読み取れない部分があるものの、本研究の先導的な役割に期待し、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>